

折に触れ 四字熟語

NO. 126 『杜撰脱漏』 ずさん だつろう

< 意味 > 物事のやり方がぞんざいで、抜かりが多くいいかげんなこと。粗雑で誤りや脱落が多いこと。

語 釈 : 「杜撰」は手落ちが多く、いいかげんなさま。「撰」は記す、著^{あらわ}す意。「脱漏」は漏れ落ちること。「杜撰」は宋の杜默^{ともく}が作った詩が、詩の規則に合わないものが多かったことから、詩や文章などに規格はずれや誤りが多いことをいう。

表 現 : 「杜撰脱漏の著作」「杜撰脱漏が多い」

一 言 : 関西電力幹部らの金品受け取り問題は、全く以て呆れかえる事件です。記者会見を見ても信じがたい内容ばかりです。彼らが行ったことが、どんな言葉に値するか四字熟語辞典をひもといていますが、今のところこの四字熟語を思いつきました。しかし、関西電力では、杜撰脱漏という言葉だけでは言い表せない反規範、反モラル、無責任なことがまかり取っていることとなります。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」